

提出日 平成 26 年 3 月 27 日

## 平成25年度総合文化研究所研究助成報告書

|  |   |  |
|--|---|--|
| 研究の種類<br>(該当に○)  | 海外共同 ・ <b>共同研究</b> ・ 個人研究   |  |
| 研究代表者氏名<br>所属職名  | 山本 聡美<br>文芸学部・教授  |  |
| 研究課題名  | 日本・東洋美術史に関する多言語教育の基盤整備  |  |
| 研究分担者氏名  | 所属職名  | 役割分担   |
| ペシヤール=エルリー・エリカ<br>松尾依子<br>(学外) グレイビル・マリベス<br><br>(学外) 米倉迪夫<br><br>(学外) 中村節子  | 国際学部・国際学科、教授<br>文芸学部・文芸学科、助手<br>米国・ポートランド美術館、<br>研究員<br>上智大学・国際教養学部、元<br>教授<br>東京文化財研究所・企画情報<br>部・資料閲覧室、元司書 | 英文・仏文文献の収集、欧州における実践例の情報収集<br>画像アーカイブ形成に関する作業補佐<br>英文文献の収集、米国における実践例について情報提供<br><br>画像収集、英語による日本美術史教育の実践について情報提供<br><br>画像アーカイブ形成に関する技術指導 |
| 研究期間   | 平成 2 5 年 4 月 1 日 ～ 平成 2 6 年 3 月 3 1 日   |  |
| 海外共同研究を実施することになった経緯 (海外共同のみ)   |   |  |
| <p>研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書</p> <p>山本聡美「生と死へのまなざし 餓鬼、病、死体の世界」(『地獄絵を旅する』平凡社、2013年7月)</p> <p>山本聡美「伴大納言絵巻」における経説の利用—伴善男邸に描かれた破戒のモチーフ」(『中世絵画のマトリックスII』青簡舎、2014年2月)</p> <p>山本聡美「九相図をめぐる過去と現在」(『宗教と現代がわかる本(2014)』平凡社、2014年3月)</p> <p>ペシヤール=エルリー・エリカ、山本聡美「宴の時代—雅宴画と遊楽図」(『共立国際研究』31、2014年3月)</p> <p>山本聡美「中世絵画の生命誌—聖衆来迎寺蔵「六道絵」の制作と伝来—」(『仏教美術論集5 機能論』竹林舎、2014年4月)</p> |   |  |

## 研究実績の概要（1）

**1）教材となる画像データの収集・データ化**（2013年4月～2014年3月、作業担当者：山本・ペシヤール・松尾・米倉・中村・グレイビル、アルバイト2名を雇用）

日本・東洋美術史に関する基礎的な教育に必要な作品をリストアップし、山本・ペシヤール・米倉がこれまでに蓄積してきた画像データを持ち寄り、画質などを勘案して最適な画像を集積した。

また、米倉所蔵の35mmポジフィルムのデータ化を行った。米倉氏より提供された、約1万5千枚のポジフィルムのうち、今年度中に3分の1にあたる約5千枚のデータ化が完了した。なお、未入力分に関しては、2014年科研費（研究代表者：山本聡美／科学研究費補助金基盤研究C「日本中世における寺社縁起絵と仏教説話画の図像交流」）にて作業継続予定。

**2）研究会の開催**（2013年6月、作業担当者：山本・松尾）

2013年6月9日に、清水義明氏（米国・プリンストン大学名誉教授）を本学に招き、英語による日本東洋美術研究・教育の実践、米国における日本美術受容に関する講演を実施した。

また同日、日・米の研究者5名による、院政期絵巻についての研究発表を実施した。発表及び講演内容は以下のとおり。

◆ 研究会テーマ「後白河院と絵巻研究会」Visualizing Stories of Heian Japan: Go-Shirakawa-in's Image Repository

【研究発表】山本聡美（共立女子大学・文芸学部・教授）仏教説話としての「伴大納言絵巻」  
The Ban Dainagon emaki as a Buddhist Parable

永井久美子（東京大学大学院・総合文化研究科・特任講師）蓮華王院宝蔵絵巻コレクションにおけるグロテスクモチーフの遍在／The Circulation of Grotesque Motifs in the Rengeōin Handscrolls  
レイチェル・サンダース（Rachel Saunders, ハーバード大学・東洋学部・博士課程）場のポートレート：異国のイメージと「吉備大臣入唐絵巻」／Portrait of a Place: Imagery of the Exotic and Minister Kibi's Adventures in China

龍澤彩（金城学院大学・文学部・准教授）神話の所有：「彦火々出見尊絵巻」に見る「異界」表現  
／Mastering Visions of Borderlands: Claiming Sovereignty through Myth

クリストファー・カージー（Kristopher Kersey, カリフォルニア大学バークレイ校・美術史学部・博士課程）後白河院と「目無経」の経文：匿名性の問題について／Go-Shirakawa-in's Ultimate Handscroll: Problems Surrounding the Inscription of the Eyeless Sutra

【講演】清水義明（プリンストン大学・名誉教授）核と美術：平山郁夫とベン・シャーン、二人の画家による反応／Nuclear Disaster in the Pacific and Art: Response by Two Painters, Hirayama Ikuo, and Ben Shahn.

**3）文献調査・収集**（2013年8月～9月／2013年12月～2014年1月、作業担当者：ペシヤール）

2013年8月25日～9月2日及び12月20日～2014年1月14日にかけて、ペシヤールが、ギメ美術館・フランス国立図書館・ルーブル美術館にて、日本・東洋美術に関する文献の収集とフランス語による基本図書の購入を行った。

## 研究実績の概要（2）

### 4) e-learning 授業の試行（2013年10月～12月、作業担当者：山本）

2013年10月～12月にかけて、スイス・チューリッヒ大学との協働で、日本東洋美術史に関する講義を計5回実施。スカイプを用いたe-learning形式で、日本語による講義と、英語・日本語による質疑応答を行った。画像資料の提示に関しては、チューリッヒ大学とウェブデザイナーのChristof von Waldkirch (von waldkirch PR&NEW MEDIA 代表) 氏の共同開発になる、「Zlide システム（インターネットを経由した、複数のコンピュータによる画像シンクロシステム）」を利用した。講義のコンテンツとして、先述1) でデータ化した画像、3) にて収集したフランス国立図書館蔵「すみよし縁起」関連画像・資料を使用し、日本側とスイス側で同時にPPT画像と音声を視聴しながら講義を円滑に進めることができた。

### 5) 在外日本美術に関する調査・研究・教育の実施（2013年6月～12月、作業担当者：山本）

アイルランド・チェスタービーティ図書館所蔵絵巻（「竹取物語絵巻」）に関する卒業論文執筆を指導。2012年9月に山本が実施した、同図書館における日本美術作品調査を踏まえ、同図書館創造作品に関する文献収集・作品研究を基盤とする卒業論文の指導にあたった。

### 6) 日米学生の国際研究会へ参加（2014年3月、作業担当者：山本）

2014年3月17日～19日にかけて、沖縄県立芸術大学と米国・コネティカット州立大学の交流プログラムに参加した。近年の米国における日本研究の論点や方法について意見交換を行った。